

中止 次の初夏に、華々しく 決定

今年の「風治八幡宮川渡り神幸祭」と「春日神社神幸祭」は中止が決定しました。これは、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぎ、みなさんの健康と命を守るための決断です。来年の5月に盛大に開催されることを願い、一人ひとりが感染予防に努めましょう。



染のリスクを高める場を提供することはできない」と説明。「疫病退散が起源の祭りを何とか実施できないかと考えましたが、残念です。本年は例大祭で疫病退散を祈願し、来年こそは盛大に開催したい」と苦しい胸の内を語りました。

また、5月23日・24日に開催予定であった「春日神社神幸祭」も、春日神社が4月10日に中止を決定。神輿や山笠の担ぎ手、鉦太鼓や踊りを担う子どもたち、来場者など多くの人の密集を避けるため、苦渋の決断を下しました。田川後藤寺駅前で開催されている「ごとうじお祭り広場」の催しも、主催の実行委員会が中止を決定。国指定無形民俗文化財「豊前神楽」のひとつである「春日神社岩戸神楽」も今回は舞われず、鬼神に抱きかかえられ泣き叫ぶ子どもたちの姿も見ることができません。

伝え聞く限り初となる中止を発表するにあたり、重藤将宏宮司は「みなさんに迷惑をかけることはぜひとも避けたいと考え、中止を決めました。地域の安寧と平癒を祈願する神幸祭です。本年は例大祭でみなさんの安全を祈願します」と話しました。

田川が誇る伝統の祭りを来年の5月に盛大に開催するためには、市民一人ひとりの感染予防が必要不可欠です。次の4～7ページの特集を参考に、個人で・家庭で・職場で、感染予防をお願いします。



▲記者会見で無念の思いを語る宇都宮宮司

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、国際的な大会や国内の祭典などが相次いで延期・中止となっています。こうした状況を重く受け止め、風治八幡宮が5月16日・17日に開催する予定であった「川渡り神幸祭」のすべてを中止すると決定。神幸祭と一緒に開催している「まつりIN田川」の催しと「写真コンテスト」も、それぞれの実行委員会が中止を決めました。平成16年に豪雨の影響で「お上り」の川渡り（2日目）が中止となったことがありましたが、記録に残っている限りでは川渡り神幸祭の中止は初めてのことです。

4月3日に開いた記者会見で宇都宮誠宮司は「一基の神輿、1台の山笠を動かすために約60人・70人が密集。準備や世話も含めるともっと多くの人が関わります。さらに県内外からたくさんの方々が訪れることを考えると、集団感